

## 『地域と経済』終刊のことば

わが札幌大学経済学部への創設以来の宿願であった、学部附属研究所「地域経済研究所」がようやく新設が認められたのは2003年4月である。以来、2009年3月までの6年間、研究紀要『地域と経済』を毎年発行し、論文・研究ノート・特集・資料紹介・評論・講演、そして新刊紹介などを掲載してその成果を世に問うてきた。とりわけ、この間に掲載した論文は17本、そして研究ノートは7本にものぼり、北海道のみならず日本における地域経済研究にも一石を投じてきたと自負している。

しかし、2008年度に折からの財政難ということで、学部附属研究所統合の方向性が学長から打ち出され、総合研究所設立準備委員会で論議を積み重ねた結果、2009年4月、ついに札幌大学附属総合研究所が設立されることとなった。この総合研究所の設立にともなって、各学部附属研究所は総合研究所に吸収・合併されることとなり、地域経済研究所は2010年3月をもって閉鎖し、その機能の一部は総合研究所に引き継がれることになった。

この結果、地域経済研究所の研究紀要『地域と経済』も、今回の第7号をもって終刊することとなった。今回発行の『地域と経済』第7号は終刊特集号として、2003年から2009年までの本誌に掲載された主要成果をピックアップした総集編とした。

今後の地域経済研究は、経済のグローバル化に伴い、これまで自明とされてきた国民経済や国民国家の枠組みを超えた領域をも視野に入れ、地域が主体性を持って経済的・社会的・文化的に地域間協力関係を作り上げていくことが期待されている。その意味で、札幌大学の経済学部、経営学部、法学部、文化学部、外国語学部、そして短期大学部に所属するスタッフが、それぞれの専門領域を超えて結集した総合研究所の設立は、時宜に適ったものといえよう。地域問題を中心として、専門領域の異なる研究者が結集した共同プロジェクト研究の成果が大いに期待される。

われわれは経済学部附属地域経済研究所の吸収・合併を前向きに捉え、新しく設立された札幌大学附属総合研究所が、今後地域問題の解決に向けて活躍するための礎となることを期待したい。

2010年3月

札幌大学経済学部附属地域経済研究所長 長尾 正克